

平清盛の日記

甲午年
甲午年
甲午年

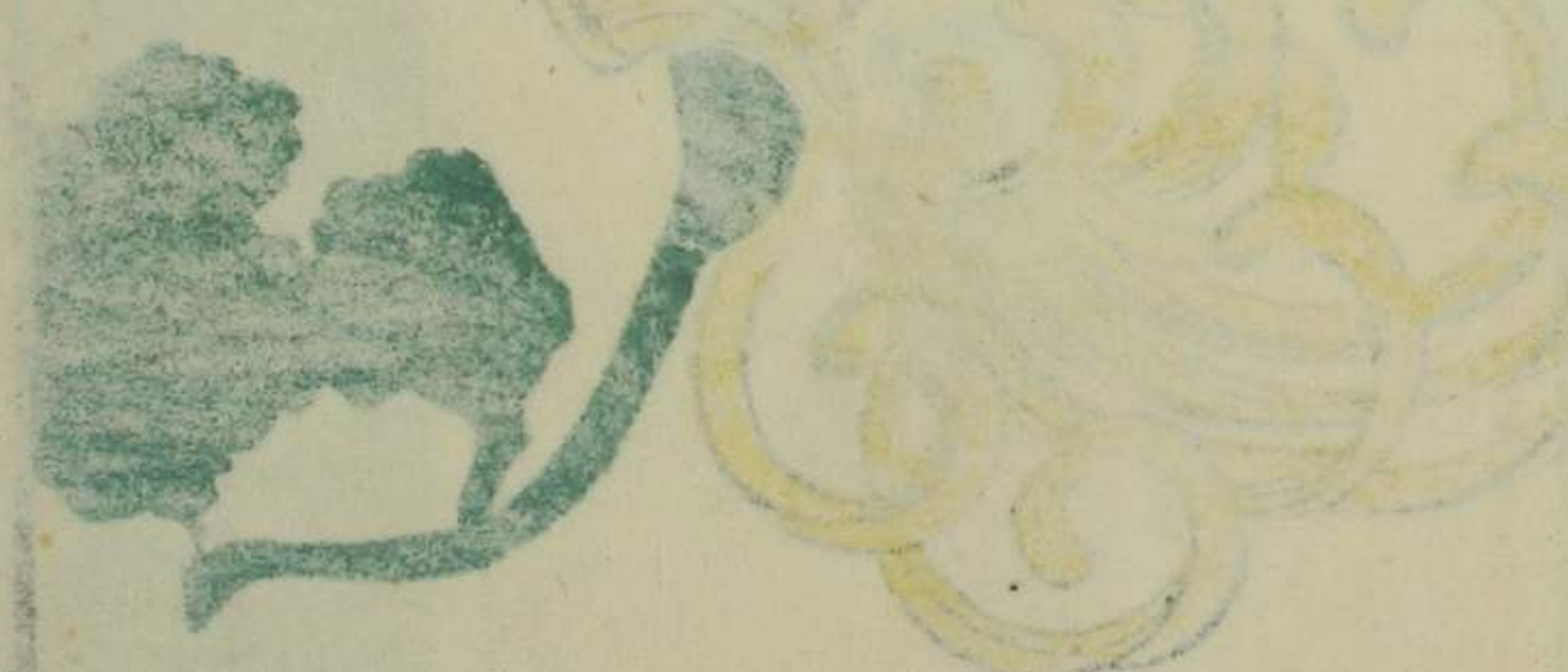
へ18
2944
16



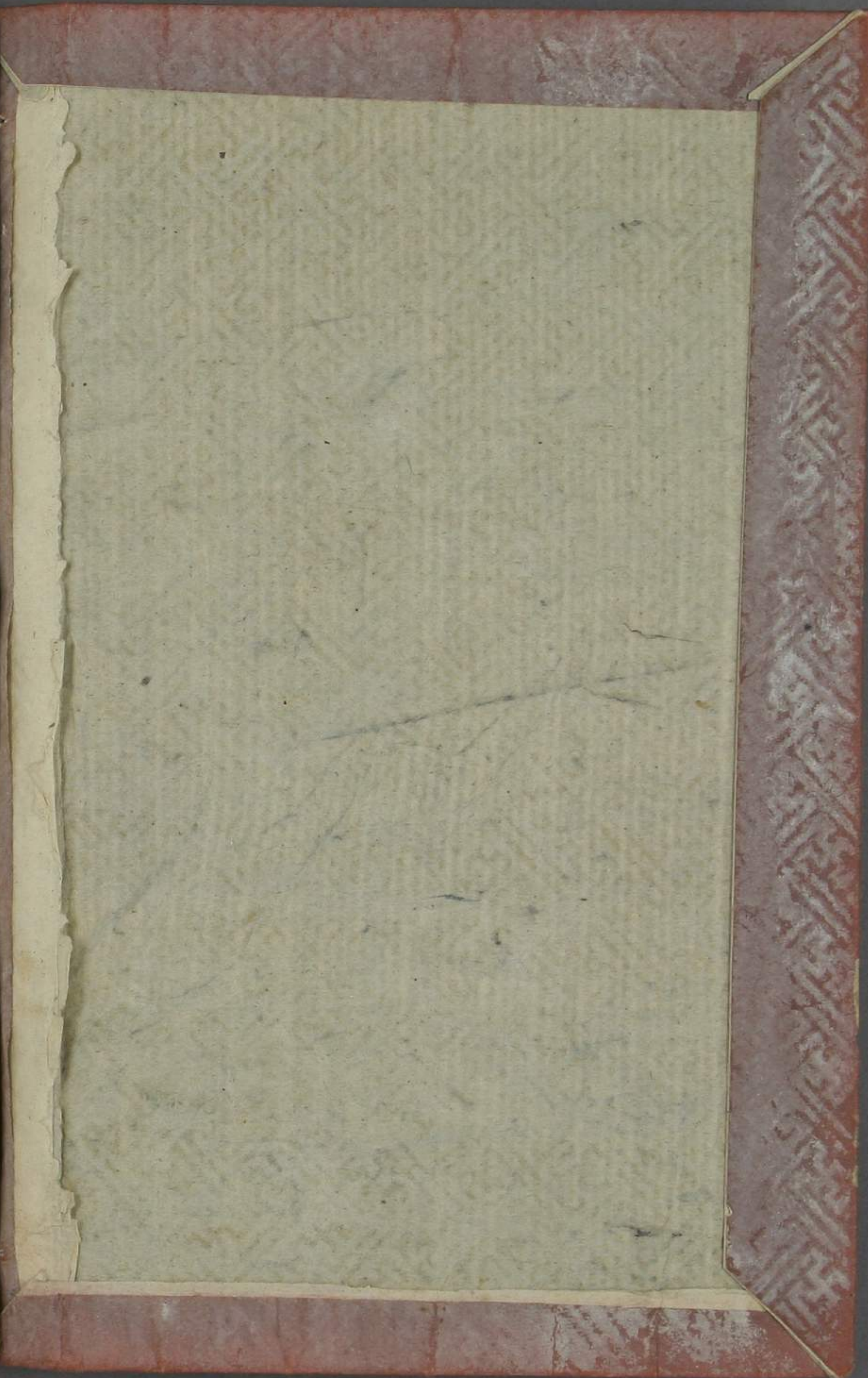
へ13
2944
16

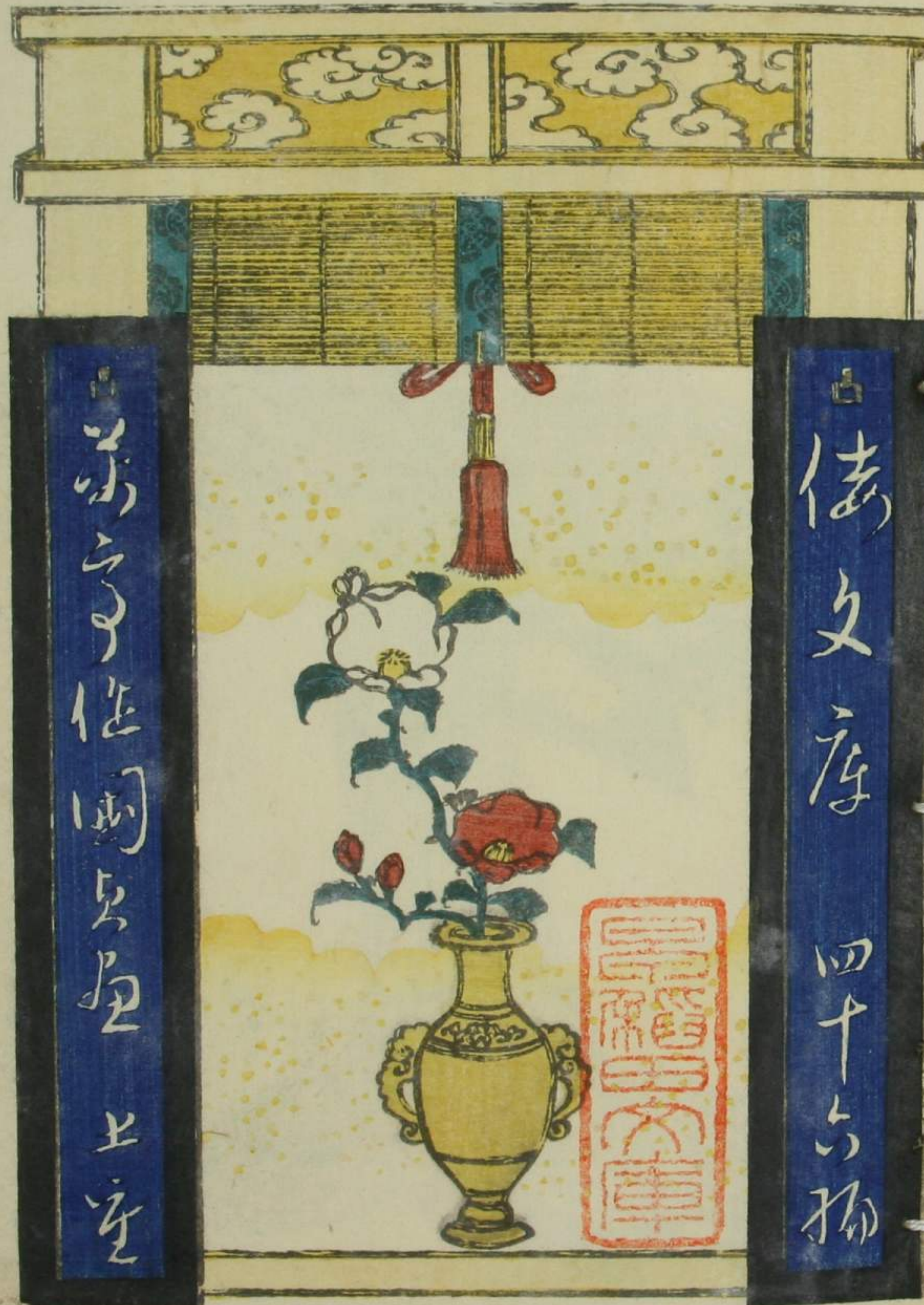
精

Handwritten text in cursive style, including the characters "大正" (Taisho) and "九月九日" (September 9th).



昭和九年
七月九日
購末





歌川國貞画



下

重上柳屋

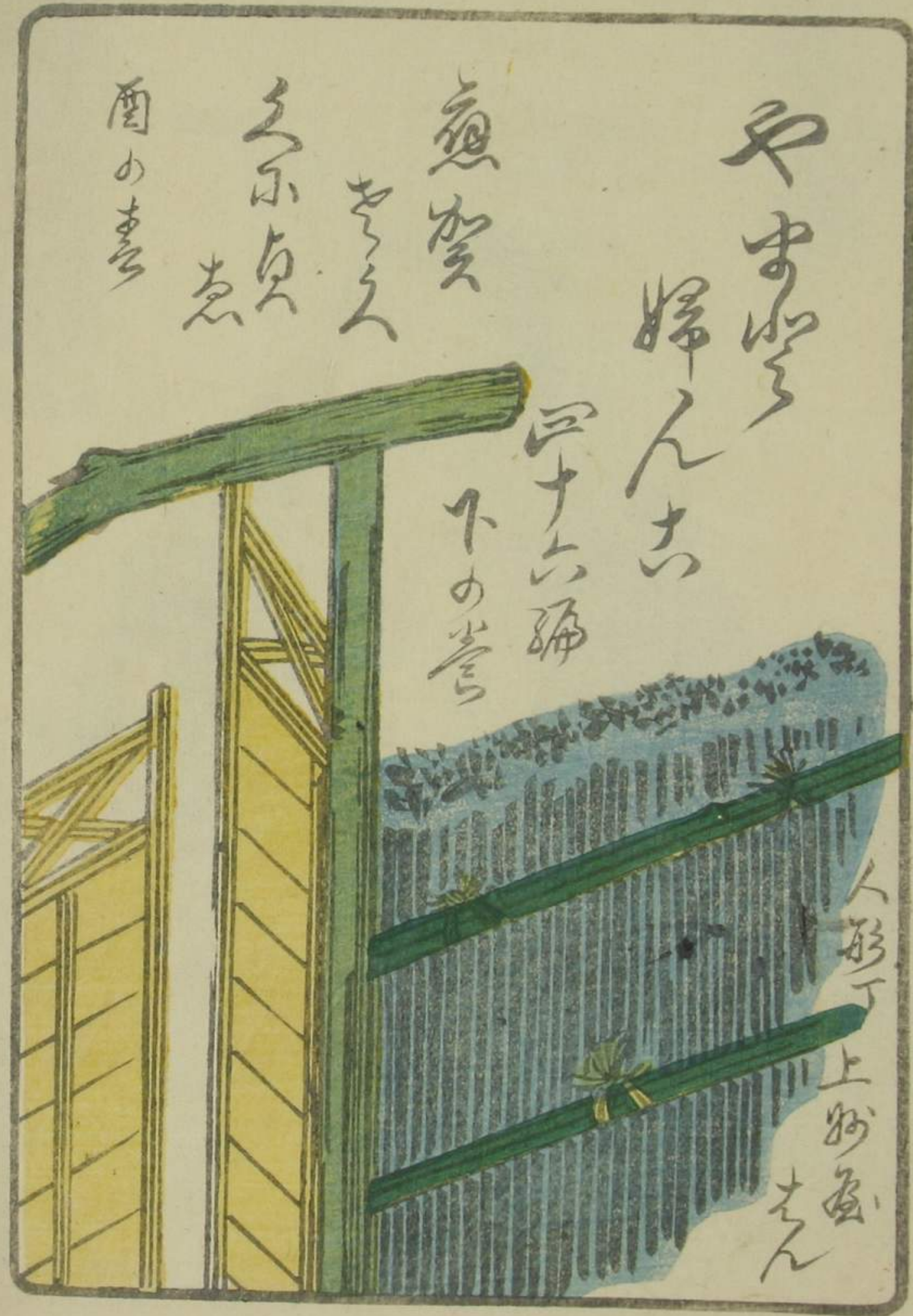
倭文庫四拾六編



上

外題曲五國書

万亭應賀作



釋迦八相傳文庫四拾六編序
 大佛頂首楞嚴經小阿難因乞食次經歷婬室遭摩
 鄧伽以娑毘羅咒攝入婬席如來頂光宣說神咒文殊
 師利將咒往護ト云此外小乘部の異釈多故茲小
 摩鄧女經を以て解畧ト下卷小佛説光明童子
 因縁經一部四卷乃説たを大善權經又雜藏經
 の説等々混雜ト如來乃威徳を假名章を輝く
 法燈をなすといふこの愚蒙此暗純を明らふ
 志さん

萬延二年
 辛酉初春

万亭應心賀誌



火光明童子誕生

世尊

本説小外道

尼乾陀と

茲ハ提婆と

摹擬也

光明童子因縁經

一部四卷中畧

有長者名曰善賢其妻懷妊問世尊佛曰汝妻胎中決定是男子於人中受天勝福其後外道以毒藥害母子遂



老百婆

びんぎまの王

送尸陀林世尊命者婆從火中得故火光明亦樹提童子共云あり

重勝王菩薩爲阿難現于神足開其疑誦



大善權經

上卷云

阿難

見有開士

名重勝王

在他室

坐與

女人

同

林阿難云

犯穢時重

勝王即自踊身

住於空中去地

四丈九尺ト云





戒因緣經第四曰 文畧
 舍利弗大目犍連從耆闍
 崛山入羅閱城分衛道逢
 暴雨入石室避雨有
 牧牛女人入先避
 雨臥失精舍
 利弗等尋出
 去見是提婆
 子子瞿
 迦離仍懷
 惡心惡瘡
 生遂墮
 地獄



九加利

舍利弗

目蓮



あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと
あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと

あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと
あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと



あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと

あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと

あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと

あまのこころを
いとおぼせしめ
ゆづりてはこころ
まはらぬこと



作又屋四十一
作又屋四十一

木下大進四十一



又のりなほとそこの
 ちかかつしつとせり
 ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ

ついでてはまことと
 ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ

ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ



ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ

ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ

ありてはまことと
 子とのひ
 ありてはまことと
 子とのひ

ありてはまことと
 子とのひ

ありてはまことと
 子とのひ

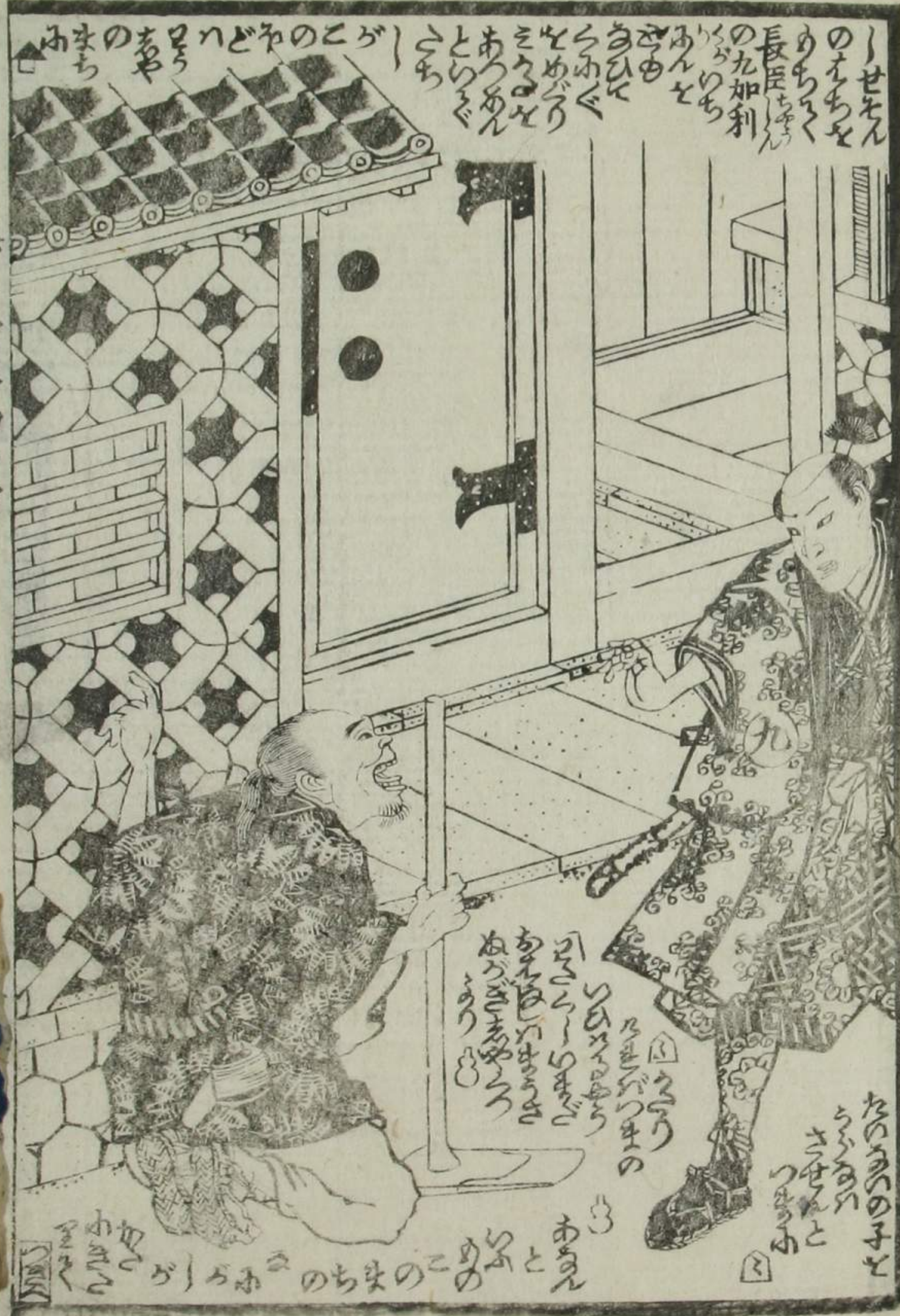


朱女 又 車 田 十 六



朱女 又 車 田 十 六

左大臣の御門



いせをん
のまを
りちし
長臣の
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利

たのみの子と
らうめん
よせんと
つめり
めり
あま
めり
あま
めり
あま

あま
めり
あま
めり
あま
めり
あま
めり
あま
めり
あま
めり



さげあ
まを
りちし
長臣の
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利
の九加利

ちり
善賢
やど
るふ
こが
まを
とを
たを
直と
あま
めり
あま
めり
あま
めり
あま
めり
あま
めり

左大臣の御門



三のまはりのこりまはしく
 二のまはりのこりまはしく
 一のまはりのこりまはしく

三のまはりのこりまはしく
 二のまはりのこりまはしく
 一のまはりのこりまはしく

説法 天熱道師

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん



三のまはりのこりまはしく
 二のまはりのこりまはしく
 一のまはりのこりまはしく

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん

〇のむれととれまはせんらん
 ちゅうまのつまのむじも
 りをせんらんらんらん
 せんらんらんらんらん

徳和元年七月

五舎



あまひら
をじり
とあま
ごんべ
りうと
やとの
せんと
と
あまひら
をじり
とあま
ごんべ
りうと
やとの
せんと
と



あまひら
をじり
とあま
ごんべ
りうと
やとの
せんと
と
あまひら
をじり
とあま
ごんべ
りうと
やとの
せんと
と

つぎにせむらふのついでに... 子のあつちのあつちのあつち... 此の世に... 世尊の御在所の名に云はれ... 来由の末の巻のくさ... 速る

つぎにせむらふのついでに... 子のあつちのあつちのあつち... 此の世に... 世尊の御在所の名に云はれ... 来由の末の巻のくさ... 速る



つぎにせむらふのついでに... 子のあつちのあつちのあつち... 此の世に... 世尊の御在所の名に云はれ... 来由の末の巻のくさ... 速る

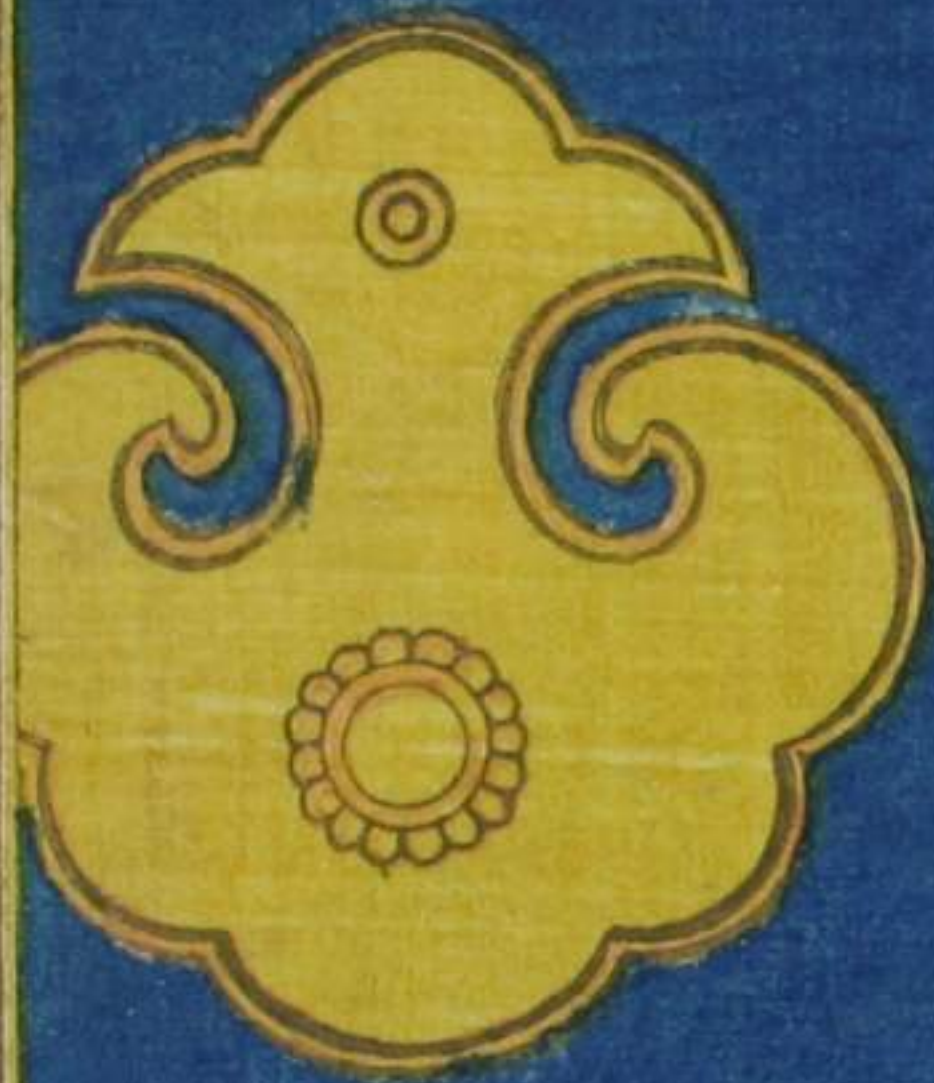


作者曰
童子因縁経の此条王舎城
如蘭陀精舎の世尊在
のまご有ども未此精舎の説と説されを
世尊の御在所の名に云はれからんとの
来由の末の巻のくさ... 速る

つぎにせむらふのついでに... 子のあつちのあつちのあつち... 此の世に... 世尊の御在所の名に云はれ... 来由の末の巻のくさ... 速る

倭文庫

應和
四拾七編



家満
戸文庫

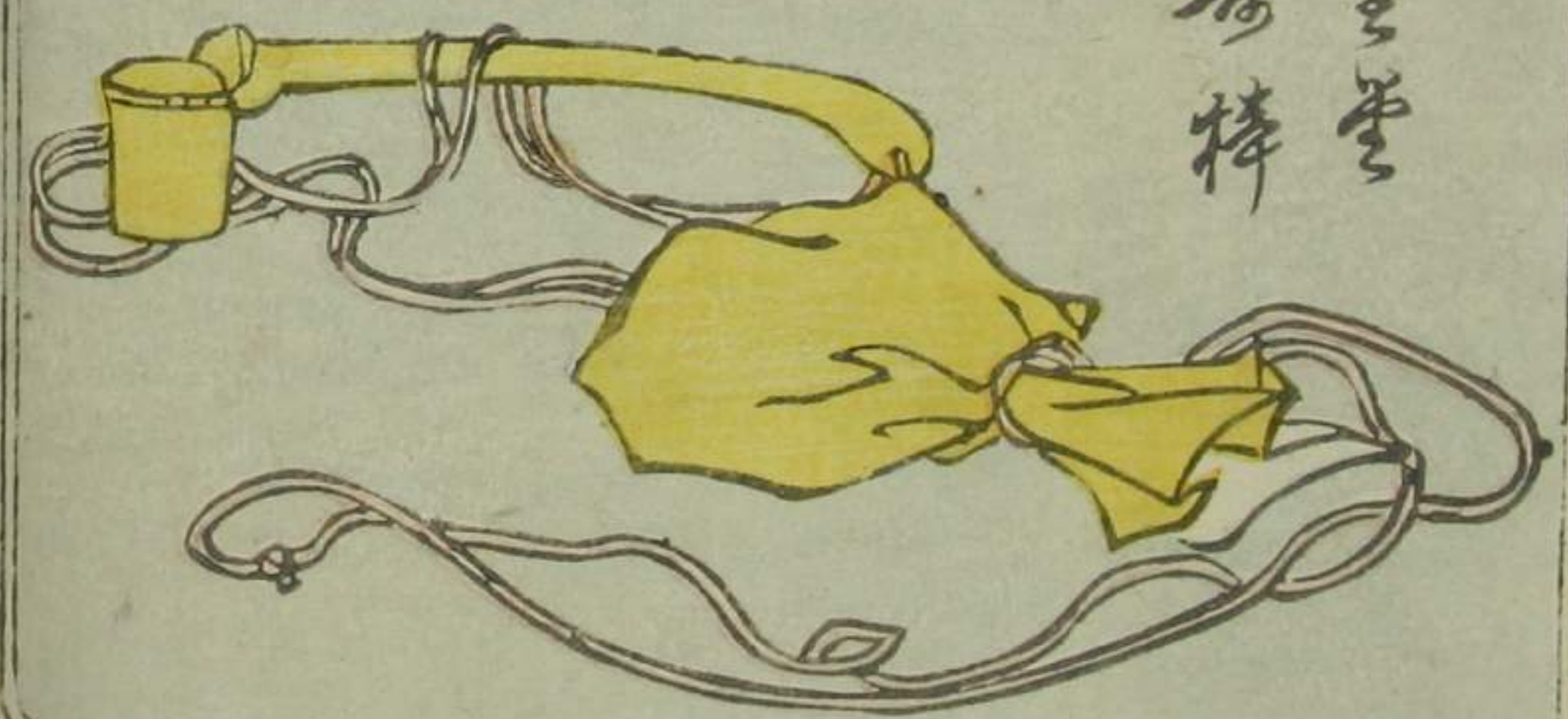
錦
書
棒

四拾七編

上之卷

急賀さく

國貞急さく



倭文庫四拾七編

上

八重上刃初屋

万享應賀作
歌川國貞画

建精祇
立舎園

外題西三國志



釋迦八相倭文庫四拾七篇序
 夫迦蘭陀長者須達長者の傳の豫め中本起經毘
 奈耶律雜譬喻經雜寶藏經十誦律等を引書
 としこも原より西域を旨とせぬ倭文庫の題も隨
 倭漢ん更をこのたの妙方便戲真此卷もこの
 遂に四拾七功德も如來に劣らぬ舍利弗が捕術の
 一段の神通力士を擬り遺ふたるは智恵も猛
 撥操の岩洞づいふか眼がここのはすば此編の是
 後編の續く御覽に入れ

万延二拾
辛酉初春



万亭應心賀誌



倭文庫

四拾七編

下之卷

病

幸也
初秋

全持

無
空
依
必
欠
志



優鬮大王の
 勅命ふらふ
 毘首天
 天
 赤梅
 檀を
 世尊の影像を
 一刃三禮一七初め
 此靈像三國小傳
 今日本嵯峨の
 新尊是あり

優鬮大王の

うきやう

び志由

かつま

給孤獨長者須達多
十八億の黄金と地を敷て
祇陀太子の園を買求
伽藍を建立して世尊を
是と祇園
精舎とす
獻ぶ





永女文庫四二二



傳天屋四二二

二の巻





左 せそん
ミルヤ
すてん

右

女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ
 女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ



女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ
 女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ

女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ
 女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ



女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ
 女をひたつれ
 てあんなに
 やあやあ



水女大軍白



水女大軍白



龍の
 姿は
 龍の
 姿は
 龍の
 姿は

龍の
 姿は
 龍の
 姿は
 龍の
 姿は

委文庫四十七



龍の
 姿は
 龍の
 姿は
 龍の
 姿は

委文庫四十七



ちやらじやと
るひみら

ちのこつちあめ
あやや せもく
ののこ

ちちゆる
ちやらじやと
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ

せんとあつて
ちやらじやと
ちのこつちあめ

せん
ちやらじやと
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ

木下入道田一



ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ

ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ

ちのこつちあめ
ちのこつちあめ
ちのこつちあめ

紙園精舎録
奉行 舎

定
一
者入座
のり
月 九



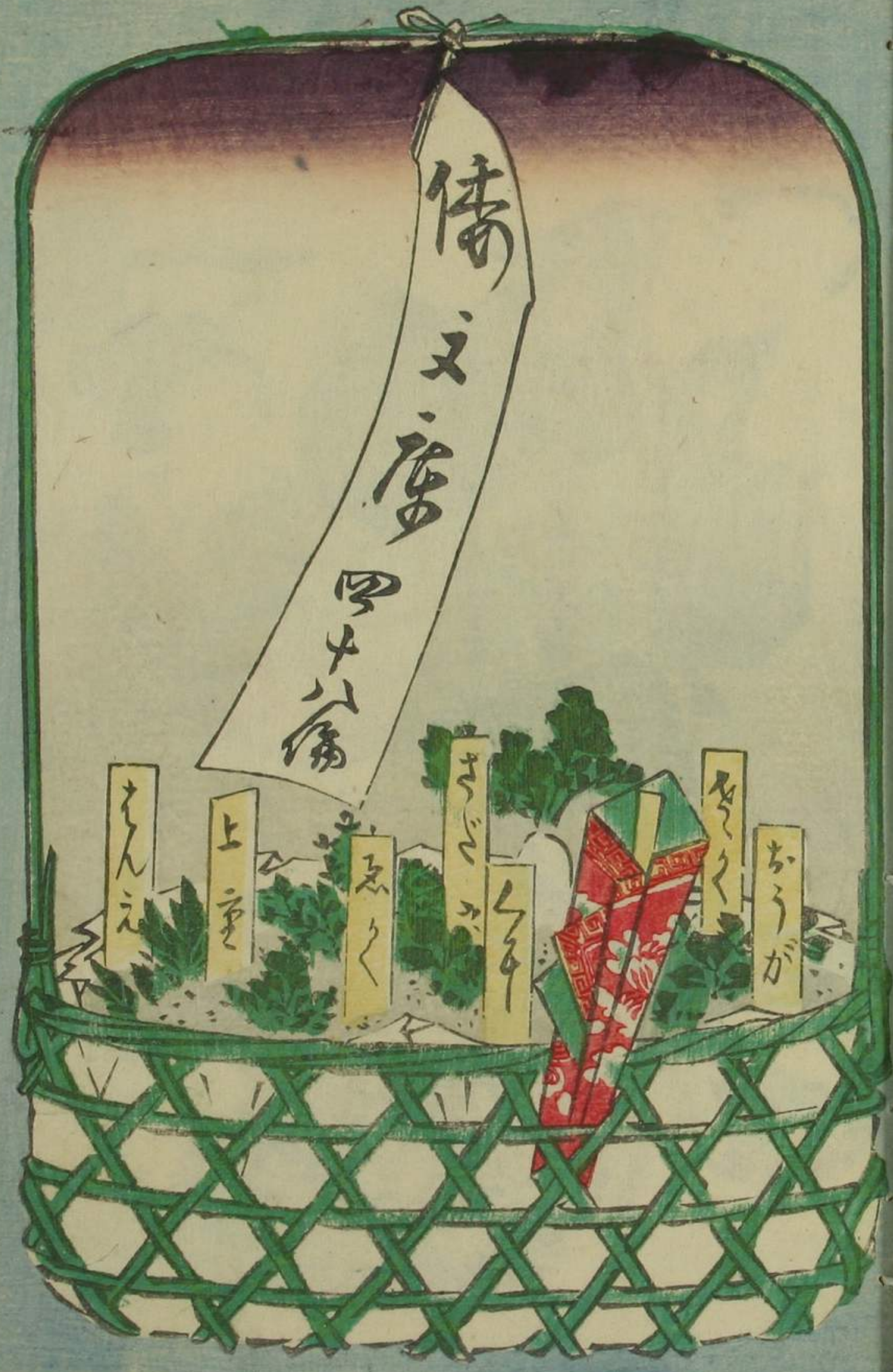
まきまき... (vertical text annotations on the right side of the illustration)

左め... (vertical text annotations on the left side of the illustration)



諸國... (vertical text annotations on the left side of the illustration)

たう... (vertical text annotations on the right side of the illustration)



万亭應賀作
一壽齋國貞画



備文庫 四十八

備書
六文來

世承
あつて名と給狐獨
りてとちや
しむとよ
まはしうとひり
めとてい

万亭應賀作



重上乃四屋

倭文庫四拾八編

上
下

歌川國貞画

外題曲五因



万亭作
國貞画



釋迦八相倭文庫四拾八編序
 此篇と世尊が御子善星比丘於佛作怨生身阿鼻
 地獄に墮るる事及び瞿伽利舍利弗目蓮を排謗して
 迦瘡を生じし事是れ地獄におつること志又六羣比丘乃
 性釈因縁聞ておん後抑予が法子の真似しと云某
 比丘おれを迷がし比丘の口釈めりてを比丘のまを
 腹のたのめりてむくくしと云がら抄子定規にチヨホ
 クレくちのねる序ふおまやうく車匿の住家のん
 杯褒てんてんへあふいしくと爾云

文久辛酉
孟秋叢覽
万亭應賀誌

倭文庫四十一



舍利弗

無量の
人々
残害の想と
起さむる
生身阿鼻地
獄なる

提婆
達多
の
伴黨
瞿伽利
不浄心せり

九加利

善星



世尊

善星
比丘
世尊の
足跡
死に
虹
あき

目蓮

舍利弗
目蓮
の
伴黨
悪瘡
生
遂に
獄中
墮る



二小跋難陀

三

迦留陀夷

四小闍那

五小馬病

六小滿病

馬病

右

左



せんま
実のあやのく

万宿

○薩婆多論

第四小云

六羣比丘とん

一難途

か

信文屋

下...
 あやこ上ら...
 トのせんよりせん...
 むり...
 あん...
 あん...
 むあ...
 まん...
 うま...
 る...
 ろ...
 ま...
 し...
 る...
 ろ...
 ゎ...
 子の...
 られ...
 あん...

左...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...
 あ...

九
 提
 善

三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...
 三...

提
 善



つまのきよゆり...
 かたはれ...
 まま...
 をさす...
 まま...
 さて...
 あん...
 けい...
 りの...
 の...
 こ...
 る...
 か...
 せ...
 さ...
 ま...
 と...
 ま...
 ス...
 と...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



つまのきよゆり...
 かたはれ...
 まま...
 をさす...
 まま...
 さて...
 あん...
 けい...
 りの...
 の...
 こ...
 る...
 か...
 せ...
 さ...
 ま...
 と...
 ま...
 ス...
 と...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん

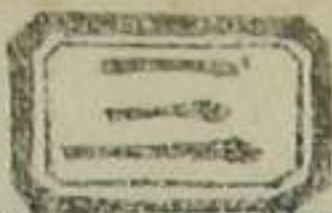
あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん

あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん

あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん

あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん

あつちしるん
あつちしるん
あつちしるん



...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...



...
 ...
 ...

...
 ...

...
 ...
 ...

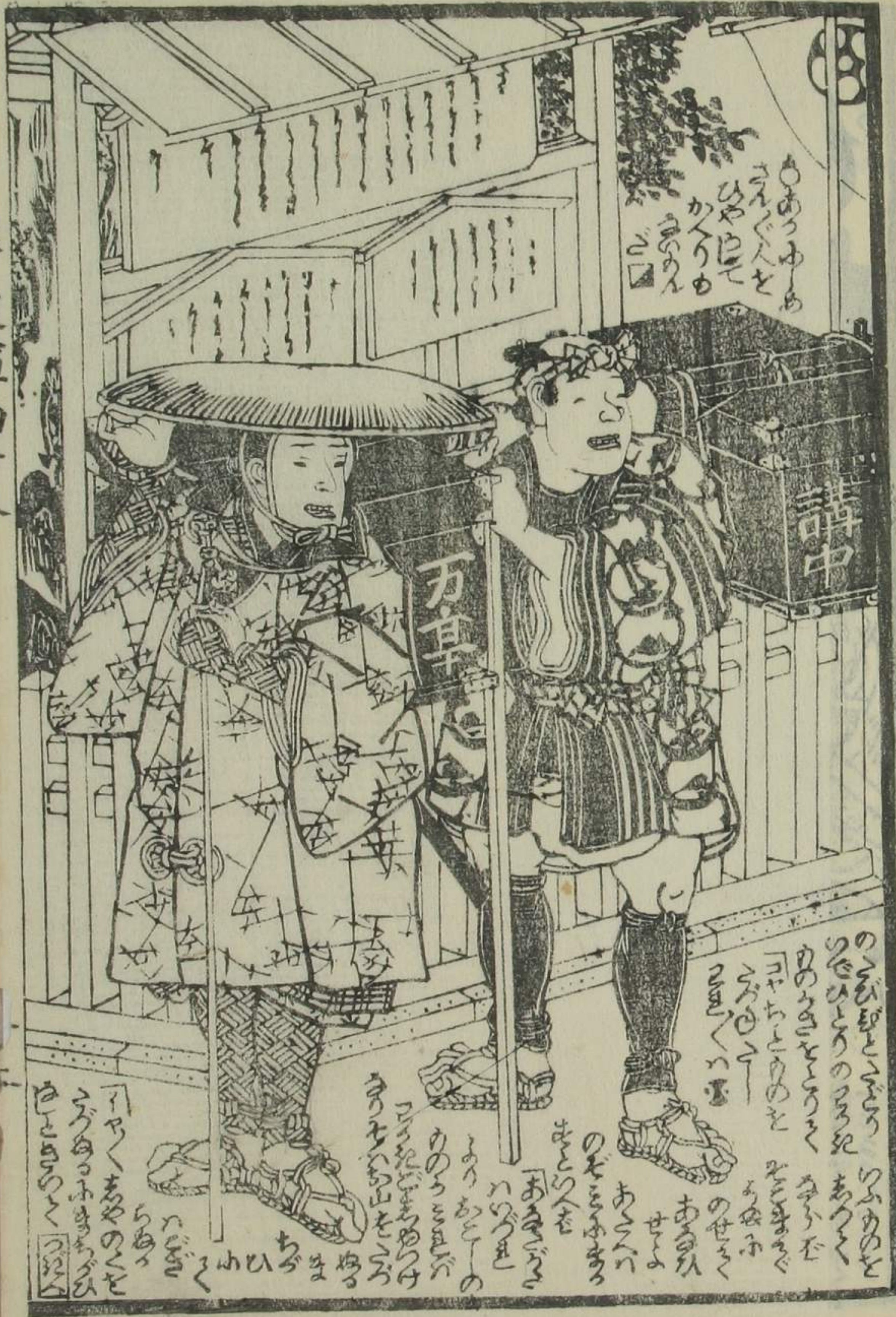
...
 ...
 ...

應心賀作 國貞畫



...
 ...
 ...

...



あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん

講中

万草

あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん
あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん
あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん



何文庫

あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん
あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん

万草

あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん
あやうゆあ
さえぐんを
ひかして
かくりゆ
まのん

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines starting with small square symbols (checkboxes).



Handwritten text in a cursive script, similar to the right page, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, with some lines starting with small square symbols (checkboxes).





ついでに... 左の... 右の... 文庫... 四十八



あまの... 舟... 川... 松... 水... 舟... 文庫... 四十八



あまの... 熊... 山... 松... 水... 熊... 文庫... 四十八

應心加貝作

國貞画

この巻は... (Transcription of the main text on the right page, including the long vertical text and the text surrounding the illustration.)



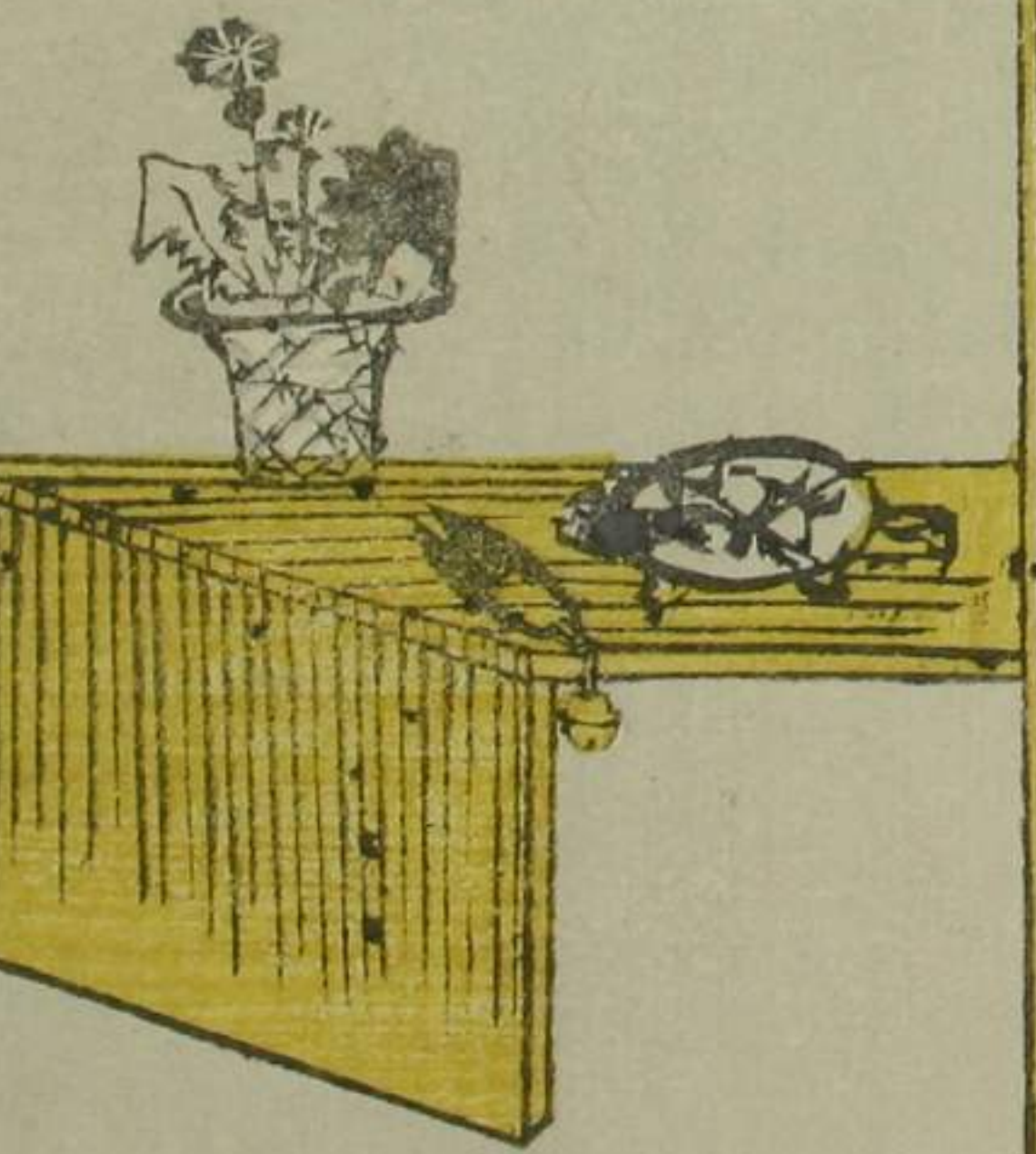
備書 六文來 (Text below the illustration, likely a collection of related documents or a list of items.)

倭文庫

第四拾八篇上卷

る ちやさく

一寿砂画



綿重堂 名号

ちやさくの巻

